

『史料館研究紀要』刊行リスト

第1号(1996年3月刊)

- 渡辺澄夫 「豊後国における皇室領荘園の研究」
豊田寛三 「大分県における近世被差別部落の確立－17世紀後半の豊後国大分郡を中心として－」
佐藤晃洋 「唐橋世済と[豊後国志]編纂」
安田晃子 「大分県立先哲史料館における史料保存の現状と課題」
三重野誠 「大友宗麟発給文書に見る署名と花押」
赤峯重信 「郷中萬覚帳(中田村文書)について」

第2号(1997年3月刊)

- 小泊立矢 「豊後における中世時宗の展開」
平井義人 「『稲葉家文書』の伝来と移動
－県立史料館による史料収集事業の一事例という視点に立って－」
大津祐司 「佐伯藩におけるキリシタン・類族－その特質と臼杵藩出身類族支配の展開－」
荒川良治 「南北朝期大友氏の惣領権－その政治史的な位置付けに向けての－考察－」
三重野誠 「安東清一氏所蔵史料について」
外園豊基 「戦国・織豊期の豊前と豊後」

第3号(1998年3月刊)

- 平井義人 「大蔵永常著作板本の研究」
田本政宏 「私塾に於ける学問・教育－帆足萬里の西えん精舎を中心として－」
鹿毛敏夫 「近世大坂－豊後間における天文科学技術・知識の伝達－麻田剛立と三浦梅園の狭間－」
三重野誠 「戦国時代末期の臼杵」
中野 等 「東京大学史料編纂所蔵[徳大寺文書]・『豊後国内御知行方目録』」

第4号(1999年3月刊)

- 平井義人 「大蔵永常著作板本の研究－その二－」
安田晃子 「豊後国における蹴鞠の展開－戦国期を中心として－」
大野雅之 「広瀬旭荘と咸宜園－離郷決意の萌芽をさぐる－」
大津祐司 「中央新聞社時代の久留島武彦」
加藤泰信 「安東正文書([槇の葉])について」
桑山浩然 「秘伝書・装束・家元制」
渡辺 融 「蹴鞠のあそびどころ」
大友一雄 「大名は如何にして文書を管理したか－文書管理のいま・むかし－」
重田正夫 「地域社会と文書館－[古文書]の保存と活用をめぐる－」
湯浅 隆 「なぜ日本の文書館は利用者が少ないのだろうか－フランスの事例では－」
飯沼賢司 「地域における史料保存の軌跡と課題－大分県を中心として－」

第5号(2000年3月刊)

- 藤木久志 「民衆からみた戦争と平和」
鹿毛敏夫 「いま戦国の府内がおもしろい」
三重野誠 「戦国の臼杵で何が起きていたか」
村上博秋 「臼杵藩におけるキリシタン禁制と寺院の関係」
安田晃子 「大阪毎日新聞社と矢野龍溪」
三重野誠 「甲斐家文書について」

第6号(2001年3月刊)

- 佐藤和彦 「蒙古合戦と南北朝内乱－地域から戦争と平和を考える－」
鹿毛敏夫 「文書館展示のアイデンティティ－記録史料展示の理論と実践－」
平井義人 「アンケートに見る地域史料調査事業の全国的趨勢と問題点」
大津祐司 「久留島武彦と雑誌『お伽俱樂部』附『お伽俱樂部』総目次」
三重野誠 「田代家文書について」

第7号(2002年3月刊)

- 村井早苗 「豊後におけるキリシタンの露頭と排耶僧の動向」
平井義人・三重野誠 「記録史料調査事業の成果と課題」
鹿毛敏夫 「学校週五日制時代の史料館活動－古文書・遺物と子どもをつなぐ－」
安田晃子 「村井弦斎あて矢野龍溪書簡」

第 8 号 (2003 年 6 月刊)

- 宮崎克則「[走り者]とは何者かー逃げる百姓と追う大名ー」
鹿毛敏夫「中世の川と水運・治水」
真野和夫「[鎮]宇銘豊後刀に関する覚書き」
平井義人「遺産相続をめぐる村の事件を追うー有永家文書よりー」

第 9 号 (2004 年 6 月刊)

- 村井章介「鉄砲伝来と大分」
鹿毛敏夫「中世の船活動と港町・流通」
安田晃子「佐々木流棒火矢の豊後森藩伝来」
大津祐司「ラジオ放送と口演童話ー久留島武彦の活動を通じてー」
村上博秋「大分県記録史料調査Ⅱ期事業の葛藤」

第 10 号 (2005 年 6 月刊)

- 開館 10 周年記念シンポジウム「みんなで見つけよう！おおいたの歴史」報告
真野和夫「激瀧水模型の製作」
村上博秋「吉丸一昌の教育観」
平井義人「速見郡荒木村荒木家文書について」
大津祐司「[手板]の様式について」
佐藤香代「子ども先哲・歴史講座について」

第 11 号 (2006 年 6 月刊)

- 吉村豊雄「熊本藩豊後領の歴史的展開ー熊本からの視点ー」
大野雅之「幕末期における江戸情報の伝達についてー桜田門外の変を事例にー」
村上博秋「瀧廉太郎と大分ー日出・竹田・大分への思いー」
真野和夫「幕末の洋式軍備に関する資料」
安田晃子「史料サポーターの活動と展望ー開設講座を史料保存利用へとつなげるためにー」

※第 12 号 (2007 年 6 月刊) 1,300 円

- 村岡ゆかり「史料編纂所って何？～絵画史料の模写を通して知る～」
佐藤香代「平成 18 年度秋季企画展[写]～まねる・あつめる・つたえる～」
加藤泰信「長尾一美[ノモンハン陣中日誌]」
岡島基信「城後村の年貢割付状について」

※第 13 号 (2008 年 6 月刊) 1,200 円

- 本多正道「豊後国真宗寺院成立の背景ー史資料に見る真宗門徒の歩みー」
村上博秋「寺と人ー寺院史料が語ることー」
村上博秋「江戸末期の農村における商業志向ー豊後国海部郡原村角左衛門家を例にー」
平井義人「[生桑区記録]に見る明治ー堀悌吉研究史料としてー」

※第 14 号 (2009 年 6 月刊) 890 円

- 神田由築「府内藩 浜之市に集う人々」
大野雅之「大給府内藩と廣瀬家ー近説と旭荘の関係を中心にー」
岡島基信「豊後国直入郡城後村の年貢割付状についてⅡ」
川野洋一「明治十四年七月浦証文ー有永家文書ー」

※第 15 号 (2010 年 6 月刊) 810 円

- 秋季企画展記念シンポジウム
「先哲に聴く おおいたの明日・日本の未来ー堀悌吉・山本五十六の生き方から考えるー」
安田晃子「秋季企画展[堀悌吉と山本五十六ーこの志奪ふべからずー]」
村上博秋「臼杵藩士久保会蔵小伝ー下級武士の学問とその評価ー」
平井義人「明治・大正・昭和と書き継がれたムラの記録ー生桑区[社日祭五穀善神録]ー」
大野雅之「[淡窓先生手書克己篇]に見る廣瀬淡窓の苦悩ー末弟旭荘のことー」

※第 16 号 (2011 年 6 月刊) 960 円

- 長野浩典「堀悌吉試論ーその近代思想史における位置づけについてー」
村上博秋「[測量日記]にみる伊能忠敬の足跡ー大分県域についてー」
佐藤香代「後藤碩田の情報収集」

※第 17 号(2013 年 1 月刊)1,090 円

長谷川三千子「野上弥生子の孫として」
平井義人「古文書に見る大分の地震・津波」
大野雅之「廣瀬淡窓書簡の作成年代についてー寛政期から文化期までー」
村上博秋「野上豊一郎・野上彌生子宛夏目漱石書簡」

※第 18 号(2014 年 1 月刊)1,040 円

芦刈政治「大野川近代通舟工事略志」
今井貴弘「玖珠緒方家文書の史料整理の現状と課題」
大津祐司「伊勢参宮日記」
佐藤香代「中津藩士築家資料について」
村上博秋「安井玄達宛福澤諭吉書簡」
大津祐司「秋季企画展[江戸への旅ー年貢米と上乗人ー]」

※第 19 号(2015 年 1 月刊)950 円

佐藤晃洋「[豊後国志]編纂における史料考証」
大津祐司「豊後国大野郡野津院下藤村の村落構造ー指導者リアンとキリシタン墓地ー」
松原勝也「能見松平家資料の領地朱印状写しについて」
佐藤晃洋「マレガ・プロジェクトに係る平成 25 年度概要調査」
大津祐司・手嶋義文・今井貴弘「ふるさとの歴史教育支援事業」
手嶋義文「先哲史料館における史料を活用した教育普及活動」

第 20 号(2016 年 1 月刊)

高橋昌彦「廣瀬淡窓著述攷」
大野雅之「廣瀬淡窓と菅茶山ー交流の軌跡ー」
井上 聡・高島晶彦「財津家所蔵[野上文書]について」
櫻井成昭「野上文書と『碩田叢史』」
松原勝也「[松平賞]創設関係史料」
原田徹宗「大分県における文書のアーカイブズ化と目録の管理・活用に関する考察」
佐藤晃洋・大津祐司「マレガ・プロジェクトに係わる平成 26 年度概要調査」

第 21 号(2016 年 10 月刊)

織田 毅「シーボルトと大分の門人たち」
松原勝也「若き日の重光葵」
手嶋義文・今井貴弘「3つの絵図目録」
櫻井成昭「豊前のキリシタン」
大津祐司「マレガ・プロジェクトに係る平成 27 年度概要調査及び国際シンポジウム」
藤田淳一郎「大分県立先哲史料館が実施する記録史料調査事業の現状とその活用について」

※印の紀要については、販売しています。購入方法等詳しいことは、先哲史料館までお問い合わせください。